

評価調査結果要約表

1. 案件概要

- 国名：ブラジル
- 案件名：保育園の人材育成を通じたコミュニティの開発－マイナンバー・プロジェクト
- 分野：コミュニティ教育
- 協力形態：開発福祉支援事業
- 担当部署：中南米部南米課
- 協力金額総計：\ 15.41百万円
参加者1人当たりの額
\ 244.67千円（修了者1人当たり）
\ 120.42千円（参加者1人当たり）
日本の支出比率：70.5%
- 協力期間（R/D）：2001年6月21日
（実施期間）：2001年10月～2004年2月
- 相手国側実施機関：モンチ・アズール・コミュニティ協会
- 日本側協力機関：特になし
- 関連する協力：特になし

1-1 協力の背景

モンチ・アズール地区およびその周辺地区においては、幼児及び青少年の人口比率が高く、全人口の約40%を占めている。一方で、家庭当たりの収入の水準は非常に低い。そのため、母親はコミュニティ協会が単独、或いは市などの支援を得て運営している保育園に子供を預け一日中外で働くという状況が一般化している。また、青少年は学校に半日しか行かないため、残りの半日は自由時間となっており、これが麻薬密売や他の素行不良に繋がる一因となっている。このため、当該地域においては、幼児のケアをする保育園や、青少年が創造的な活動を行える青少年センターが重要な施設となっている。しかしながら、こうしたセンターの活動が成功するためには、物理的スペースのみでは十分ではなく、幼児や青少年のケアと教育の責任を担うコミュニティの教育者が重要な要素となる。

このような背景の下、モンチ・アズール・コミュニティ協会は、これらのコミュニティ地域の教育者の能力向上を図り、幼児や青少年により良い指導を行うことを目的とした「保育園の人材育成を通じたコミュニティ開発プロジェクト」の支援をJICAに要請した。

1-2 協力内容

本件協力による研修コースは、サンパウロ州サンパウロ市の貧困地区であるモンチ・アズール地区およびその周辺地区のコミュニティ地域の教育の質を向上することを目的に、同地区における保育園や青少年センターの教育者を対象に実施された。

(1) 到達目標

1) 到達目標1

本研修コースにより参加者のコミュニティ教育についての理解度が高まる。
評価方法 (a) 参加者に対するアンケート調査、 (b) 各参加機関の参加者のコーディネーターへのアンケート及びインタビュー調査。

2) 到達目標2

参加者が本研修コースで習得した知識や技術を教育活動において活用する。
評価方法 (a) 参加者に対するアンケート調査、 (b) 各参加機関の参加者のコーディネーターへのアンケート及びインタビュー調査。

3) 到達目標3

本研修コースを受けた教育者の責任下にある幼児や青少年の間で変化が見られる。
評価方法 (a) 参加者に対するアンケート調査、 (b) 各参加機関の参加者のコーディネーターへのアンケート及びインタビュー調査。

4) 到達目標4

参加者、講師、研修実施機関の間の交流ネットワークが強化される。
評価方法 (a) 参加者に対するアンケート調査、 (b) 各参加機関の参加者のコーディネーターへのアンケート及びインタビュー調査、 (c) モンチ・アズール・コミュニティ協会のコーディネーターグループに対するインタビュー調査。

(2) 投入

(2001年度～2003年度)

US \$	\	%	3年間累計投入金額	131,049.17	15,413,897.01	100.0%	日本側投入金額 (JICA)	92,356.56	10,866,071.80	70.5%	相手国側投入金額 (モンチ・アズール・コミュニティ協会)	38,692.62	4,547,825.21	29.5%
-------	---	---	-----------	------------	---------------	--------	----------------	-----------	---------------	-------	------------------------------	-----------	--------------	-------

2. 評価調査団の概要

調査者：

JICA サンパウロ支所
(現地委託コンサルタント：Ms.lone Marisa KOSEKI CORNEJO, サンパウロ大学建築・都市計画学部
卒。個人コンサルタント)

調査期間：

2004年11月22日～2005年2月21日

評価種類：

在外終了時評価

3. 評価結果の概要

3-1 評価結果の要約（実績の確認）

コース期間：2001年10月～2004年2月

参加者：128人（うち修了者：63人、未修了者－出席日数不足：65人）

参加機関数：10

1. 妥当性

社会的教育者あるいはコミュニティー教育者の主な特徴は、彼ら自身がそのコミュニティーに住んでいることにある。これらの教育者は学校で習得した知識はないかもしれないが、コミュニティーの生活について深い知識を持っており、住民の信頼も厚い。コミュニティー教育者は、通常、行政機関との間で結ばれた協定を通して幼児や青少年に教育活動を提供している「コミュニティー協会」（NGO）で働いている。サンパウロ市の教育局は「契約」、「直接」、「間接」の3つの形態の保育園や青少年センターを提供している。「契約」と「間接」では、教育局の資金提供の下、本協力で実施した研修コースに教師を参加させるようなNGOが、教師と施設等の運営管理、それに加えて一部資金の提供をしている。このように、市政府は、これらNGOとそこに所属する教師たちに、保育園や青少年センターにおける教育サービスを提供するにあたり、大きく依存している。このような、コミュニティーレベルの教育サービスの需要は非常に大きく、また、市政府も保育園や青少年センターにおいて質の高い教師を求めていることから、コミュニティー教育者を訓練する本案件の妥当性は高い。

2. 有効性

調査の結果、コースを修了した参加者は、子供達とその親に対する姿勢、態度が改善されたと感じていることがわかった。また、コミュニティーの教育者が、コースで得た知識、能力により、より自信を持ち、学んだ知識を適用することにより、生徒の振る舞いにも違いが見られるようになった。一方で、プロジェクト終了時の参加機関数とコースを修了した参加者の数は、当初予定より少なく、また、コーディネーターチームの努力にもかかわらず、予定されていた公的社会的教育者としての公式な職業の認可には至らなかった。

3. 効率性

プロジェクトは、会計管理の問題を除き、全体に効果的に実施された。研修コースの修了者は当初予定より少なかったが、全体的に投入は適切に活用された。

4. インパクト

プロジェクトの主なインパクトは、本研修コースを受けた教育者の責任下にある子供たちの行動が変化したことに見られる。これらの子供たちは、以前より穏やかになり、学習能力が増し、学習に興味を持つようになった。また、教育者も研修コースを受けることにより自分自身に自信が付き、子供の両親との関係が向上した。また、参加者は得られた知識や技術を自分が属する機関の他の教育者にも伝達しており、案件のインパクトは広範囲に及びつつある。

5. 自立発展性

モンチ・アズール・コミュニティー協会は、研修コースの特定のテーマについてより深く学びたいと希望する本研修コース（3年間の基礎コース）修了者を対象に、更に1年の研修コースを実施した。また、同協会はまたマイヌンビーⅡというマイヌンビーⅠ（開発福祉支援事業「保育園の人材育成を通じたコミュニティー開発」）で参加日数が足りずに修了できなかった参加者、あるいは、別機関の新たな参加者を対象にした基礎コースを準備している。このマイヌンビーⅡでは、プロジェクトを実施していく上で必要な明確なルールを作ったり、必要な学歴条件に適合する参加者を選定したり、また関連する社会活動を実施している機関からも選定するなど、数々の改善が図られる予定である。マイヌンビーⅢは、宣伝を全くしていないにもかかわらず、既に200人の希望者が順番待ちをしている状況であり、研修コースに対する大きな関心が存在することを伺わせ、自立発展性の発現が期待できる。

3-2 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

- ・コミュニティー教育者の職業はまだ正式に認可されていないが、実際にこれら教育者は貧困地区に居住し、多くの幼児や青少年の教育やケアをしている。教育局とのパートナーシップによりNGOによって運営されている教育センターを、サンパウロ市政府が重視したことが、効果の発現に繋がった。
- ・訓練を提供したモンチ・アズール・コミュニティー協会は、NGOとして、そのような教育センターを運営する経験も豊富であり、教育法に関して、教育者のニーズも良く理解していた。

(2) 実施プロセスに関すること

- ・本研修コースは、教育者の活動に影響がないよう土曜日に行われた。集中セミナーへの参加は選択制であり、週末を全面的に使えるよう遠く離れた場所で行われた。
- ・法的要求に応えるため、研修機関がコミュニティー教育者の正式な教育の修了を促進した。

3-3 効果の発現を阻害した要因

(1) 計画内容に関すること

- サンパウロ市におけるコミュニティ教育者の数はたいへん多いが、このようなコミュニティ教育者を対象にした研修コースは本研修コースのみである。コミュニティ教育者の資格が正式に認められない状況では、行政機関からこのようなコースへの資金を得ることは難しい。

(2) 実施プロセスに関すること

- 参加機関は現在、教育者に対する学歴レベルについての法的要求を満たすため、徐々に教育者を高校卒業者に替えている。このため、かなりの数の研修参加者は、コース途中から所属機関で働き始めて途中から本研修コースに参加しており、結果として参加日数不足で修了できなかった。

3-4 結論

現在、サンパウロ市では特に貧困地域で保育園、託児所、青少年センターに対する大きな需要があり、このような施設におけるコミュニティ教育者の役割は大変重要であるが、我々が知る限りこのような教育者に対する適切な研修コースは本案件のほかには存在しない。従って、本研修コースはバイオニアプロジェクトと言え、それ故多くの問題にも直面し、修了者数は当初計画の目標数には達しなかった。しかしながら、今回終了する本案件に引き続いて、フェーズIIが現地イニシアティブで実施されるなどの点に鑑みると、現地のニーズに即したインパクトの大きい案件であったと結論できる。

3-5 提言

モンチ・アズール・コミュニティ協会に対する提言。

- 新たな教育者と機関の参加のための明確な基準を含むコースガイドブックを作成するべきである。
- 研修コースの教育コーディネーターグループはJICAとより近い関係を保つべきである。教育コーディネーターグループは、活動レポートを作成するのみではなく、プロジェクト実施過程で起こりうる様々な問題を報告するため、頻繁な連絡を取り合うべきである。

JICAに対する提言。

- コミュニティ・プロジェクトのモニタリングを容易にするためコミュニティ協会向けのプロジェクト実施マニュアルと評価マニュアルを作成する必要がある。
- 協力同意書に、活動レポートの提出のほか、プロジェクトの評価と必要なプロジェクト調整のために、JICAと教育コーディネーターグループの間の定期的な協議の実施を含める必要がある。

3-6 教訓

本プロジェクトは、サンパウロ市の貧困地区において保育園、託児所、青少年センターなどに関わっているコミュニティ教育者に対する適切な研修コースを提供するバイオニア的な活動である。これらの施設は行政機関との連携でNGOにより運営されており、働く母親が子供たちを安心して預けられ、また、青少年が創造的な活動に参加することにより犯罪を避けるという点でも、非常に重要である。本プロジェクトの実施はこのようにコミュニティ教育者の重要性を考えると、妥当なものであったと言える。

一方、JICAサンパウロ支所と、モンチ・アズール・コミュニティ協会のプロジェクトコーディネーターグループは、それぞれプロジェクトの進捗報告について、別の基準を持っていたために、幾つかの課題も提起された。JICAサンパウロ支所では、具体的な情報・指標や数字による成果を示しながら、プロジェクトの進捗状況を報告する必要があった。他方、モンチ・アズール・コミュニティ協会は、このような情報を提供する必要性の認識が薄く、期限内に客観的な方法で情報提供をどのようにするかがよく理解されていなかった。モンチ・アズール・コミュニティ協会では、ほとんどの場合、プロジェクトの進捗を参加者の感想を列記して報告するだけだった。このような連携機関の間の意識の差は、今後のプロジェクト実施において教訓を与えるものである。

本プロジェクトはバイオニア的なプロジェクトであり、試行錯誤の側面があったことも確かだが、実施過程で起こった問題や困難については、モンチ・アズール・コミュニティ協会とJICA双方が納得できる実施方法を見出した上で、プロジェクト管理やフォローアップの方法を向上するために使われることが望ましかった。

3-7 フォローアップ

該当なし